

3 簡易収穫表の作成に関する調査 (県単：H29 (2017) ～R1 (2019))

宮崎 潤二

目的

長伐期施業に対応した、スギ及びヒノキの簡易収穫表の調製を行う。

1 調査の方法

平成 30 年度は、ヒノキの簡易収穫表の調製に向けて、成長データの分析に着手した。

分析にあたっては、平成 22 年度から 27 年度にかけて実施した森林資源モニタリング調査の成果 (121 プロット、林齢 40～75 年生) の調査データを利用した。

2 方法と結果

対象となる各林分内のヒノキについて、林齢と平均樹高の関係について検討した。

解析には、統計ソフト (LightStone社 Origin) を利用した。その結果を図-1 に示す。

林齢ごとの平均樹高は全体的にばらつきが大きかった。県内のヒノキ林の大部分は実生林と思われるが、一部は成長の早いとされる挿し木品種も植栽されており、成長が早い品種や個体が混在するところで、ばらつきが生じている可能性が考えられた。

今後は、このばらつきについて検討を加えつつ、県内のヒノキの標準的な成長量について、検討を加え、簡易収穫表の調整を進める予定である。

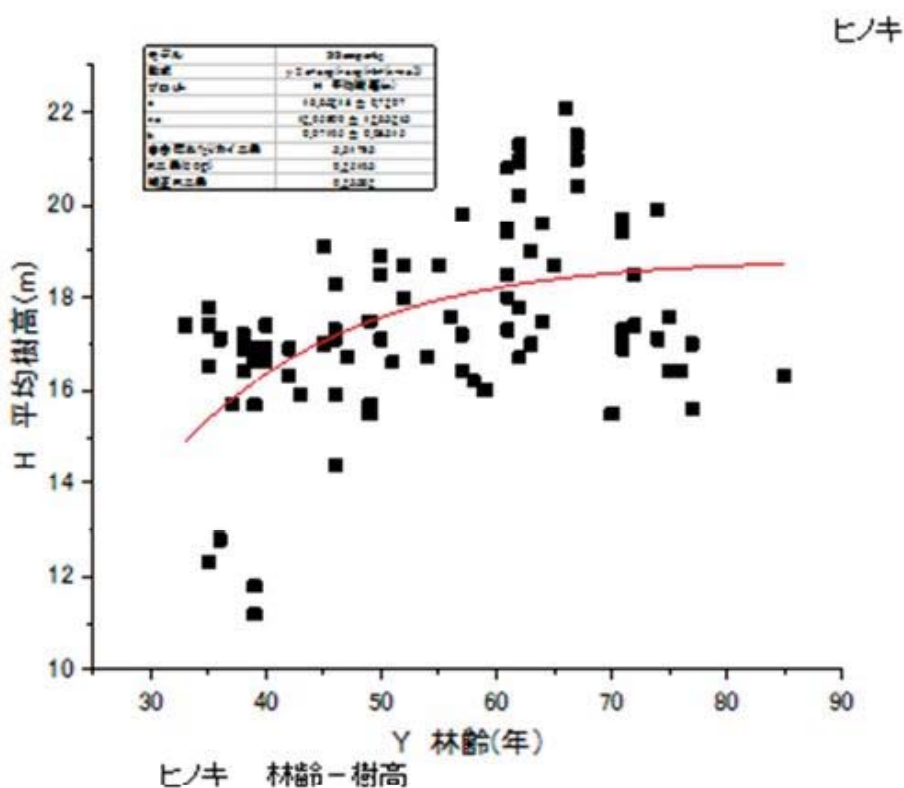


図-1 ヒノキ樹高成長曲線